

学校名 熊谷市立大麻生中学校
所在地 熊谷市大麻生35-1
電話 048-532-3575

1 本校の概要

本校は昭和22年に開校し、平成28年度に開校70周年を迎えた。生徒数は203名、7学級の小規模校である。「誇れる郷土 大麻生に学ぶ 埼玉県一の中学生」を学校教育目標に挙げ、日々教育活動に取り組んでいる。

2 本校の実践

(1) 実践の視点

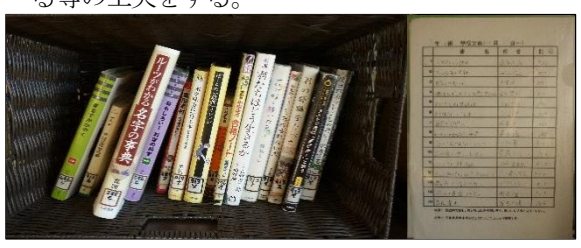
- ・ 読書に親しむ態度や読書週間に係る取組
- ・ 言語活動の充実など学力向上と結び付けた取組

(2) 実践の概要

図書室の利用者を増やすために図書委員会の活性化を図り、読書啓発に取り組む。さらに、一人ではなくみんなで読書の楽しさを味わう取組をする。

ア 図書委員が選ぶ学級文庫

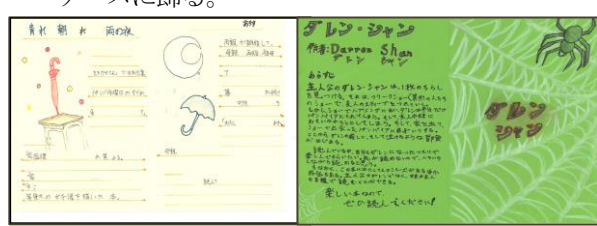
毎月、図書委員で行う学級文庫の入れ替えを各クラスの図書委員が図書室の本から選ぶ。クラスの人に読んでもらうためにシリーズ物を選んだり、みんなが興味を持ちそうなものを選んだりする等の工夫をする。



【学級文庫の本とリスト】

イ 図書委員が作る本の「紹介カード」

図書室にある本の中で図書委員が読んでお薦めする本を紹介する掲示物を作り、図書室前のショーケースに飾る。



【「紹介カード」の掲示物】

ウ 図書委員が考えた生徒朝会

10月の読書旬間中に行う生徒朝会に向けて、図書委員が主体となって計画的に取り組んだ発表を行う。生徒の発想を活かした手作りの発表にする。



エ ビブリオバトルの授業

国語の授業で、自分の読んだ本の伝えたい情報を取捨選択し、相手にわかりやすく、且つ興味を引くような伝え方をする「ビブリオバトル」を行う。始めに班の中でバトルをし、班の中の「チャンプ本」を決め、次にクラスの中でバトルをしてクラスの「チャンプ本」を決める。さらに「チャンプ本」を選んだ理由を伝え合う。

3 成果と今後の課題

(1) 成果

図書委員が選ぶ本は、生徒目線で選ばれているため、学級文庫の本を読む人が多く、全部の学級文庫を朝読書で読んでしまう生徒もいた。また、図書委員自身が図書室づくりに積極的に関わることで、生徒朝会も自分たちの言葉で伝えることができ、図書室に来る生徒も以前より増えた。また、ビブリオバトルの授業では、クラスのほとんどの生徒が、友達の紹介する本に興味を持つことができた。さらに伝え方を聞くことでどのように相手に伝えたらよいかを学ぶことができた生徒が多かった。

(2) 課題

図書室に来る生徒や本を借りる生徒は、一定しているが、依然として少ない。教室で読書をする生徒は多いが、図書室を利用する生徒が少ない。それは、図書室の場所が教室から遠いということもあるが、図書室運営の工夫により来室者数を増やすことができると考える。

(3) おわりに

今後も生徒の実態に合わせて読書の環境を整えていき、本に親しむ機会を増やし、心を豊かにする教育活動を実践していく。